



税を払うことで

大田区立大森第三中学校 二年 森 夢菜

「税」と聞いてあなたは何を思い浮かべるだろうか。中には、マイナスなイメージを持つ人もいると思う。私は、「救急車」を思い浮かべる。

小学校の頃の授業で、救急車は税金のおかげで私たちはお金を払わずに乗ることができていることを学んだ。それから私は、税金で払われているものと言えば「救急車」をイメージするようになった。正直なところ、医療ドラマなどをよく見る私は、「救急車に乗ってみたい」などと思ったことがある。

ある日、テレビで救急車に対する迷惑行為に関してのニュースが報道されているのを見た。その迷惑行為の内容は、「いたずら電話」「救急車をタクシー代わりに使用」「救急車内での自撮り」など考えられない内容のものがほとんどだった。

インターネットで詳しく調べてみると、救急車の出動要請は年間百万件を超え、そのうちの約三割が「いたずら」や「間違え」だったのだという。その約三割にも税金がかけられていることをこのような行為をしている人たちは知っているのだろうか。私は、「救急車に乗ってみたい」などと思っていた自分がとても恥ずかしく感じた。

私はここで、なぜ日本は、救急車にかかる費用を税金でまかなってくれて

いるのだろうか、疑問に思った。他国には日本のように補償をしてくれる国もあれば、救急車を利用するたびにその都度約五〜六万円の請求がなされる国もあるらしい。一回の出動にかかる費用は約四万五千円かかるようだ。全てを税金でまかなっている現在、救急車を有料化にすれば、一年で約二千七百億円ほどかかるお金を他のことに回すことができ、救急車への迷惑行為も減らす事ができるだろう。

だが、有料化した場合どのようなことが考えられるのだろうか。重症で今にでも病院に搬送しなければいけない人が経済的な理由で救急車の出動要請をすることをためらってしまい、搬送が遅れ、命を落としてしまうことがあるかもしれない。このように、本当ならば救えた命も救えなくなってしまうかもしれない。そのようなことを考えると、やはり私は、救急車を有料化にしないでこれからも税金でまかなっていく必要があると考える。

この前の参議院選挙で、立候補者の人たちの演説の中に、「減税」というワードが多く出てきていた。このワードが出てくるほど、日本人は税に対してマイナスなイメージを持つ人が多いのだと改めて感じた。

そこで、マイナスなイメージから視点を変えてみてほしい。私が述べた「救急車」だけでなく、「教育」「警察」「道路」など私たちの生活に大きく関わるものが成り立っているのは、私たちが毎日払っている税のおかげだということを感じてほしい。これから私たちは税を払い続けなければならない。国のために、みんなのために、自分のために。